

## 円安に急ブレーキ、円高トレンドの始まりか？ それとも円安トレンドの小休止か？

**月** 初1ドル130円近辺でスタートしたドル円は足元では127円台後半にある。3月から4月にかけて急速に円安ドル高が進んだが、今月は円安に急ブレーキがかかり、むしろやや円高に振れている。企業の決算発表などを受けて、高インフレやFRBの今後の急速な金融引き締めによって米国が景気後退に陥るとの懸念が台頭し、先々の景気見通しを織り込む米長期金利がやや低下したことが円高ドル安圧力になった。また、ゼロコロナ政策堅持に伴う中国経済減速懸念も米金利低下を通じて円高をサポートした。

今月の動きが円高ドル安基調の始まりなのか、それとも円安ドル高基調の小休止に過ぎないのかは見極めが難しいが、今後もう一段円安に振れる可能性が高いと見ている。FRBの利上げはまだ途に就いたばかりで米国経済も依然底堅さを保っている。いずれは景気減速局面を迎えてドル安基調に転じるにしても、市場の悲観が先行しすぎている感がある。今後、過度の悲観が一旦後退するにつれて、米金利の持ち直しに伴って円安ドル高圧力が再び発生する可能性が高い。また、長期化している上海の都市封鎖が来月解除される方針であることも円安に寄与するだろう。3カ月後の水準は132円前後と見込んでいる。

今月のユーロ円は、ユーロ圏経済の減速懸念から一旦ユーロが大きく下落した後、ECBの早期利上げ観測台頭を受けて持ち直し、足元では136円台前半と月初の水準をほぼ回復している。今後もウクライナ侵攻長期化によるユーロ圏経済の減速懸念がユーロの重荷となるものの、7月にはECBが利上げ開始に踏み込むと見込まれることから、日欧金融政策の違いが鮮明化し、ユーロの追い風になる。3カ月後の水準は現状比でややユーロ高の138円前後と予想している。

今月の長期金利は0.2%台前半での横ばい推移を続けている。米金利上昇が一服したほか、今月から日銀が連続指し値オペの毎営業日実施を開始したことで、金利の上昇が抑えられている。今後は米金利が一旦持ち直し、国内金利の上昇圧力になると見ているが、連続指し値オペで0.25%以下に抑えこまれるだろう。3カ月後の水準は現状比横ばいの0.2%台前半と見込んでいる。



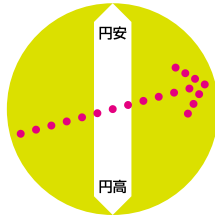
上席エコノミスト **上野 剛志**  
うえの つよし | tueno@nli-research.co.jp

1998年日本生命保険相互会社入社、  
2001年同財務審査部配属、  
2007年日本経済研究センターへ派遣、  
2008年米シンクタンク The Conference Boardへ派遣、  
2009年ニッセイ基礎研究所。

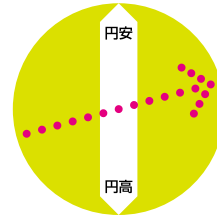


# Market Karte

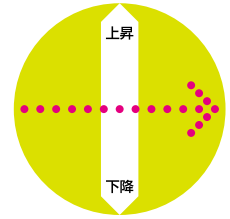
June 2022



ドル円・3カ月後の見通し

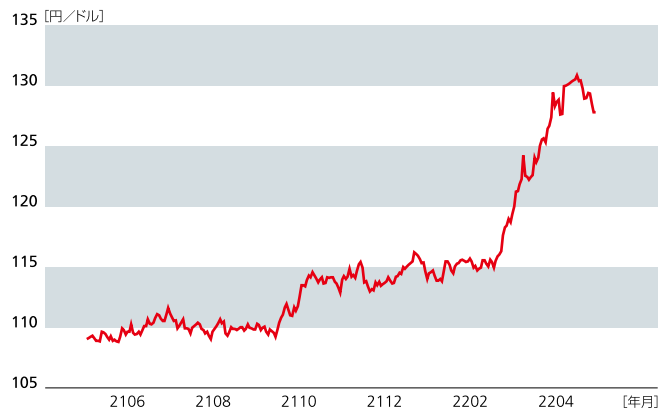


ユーロ円・3カ月後の見通し

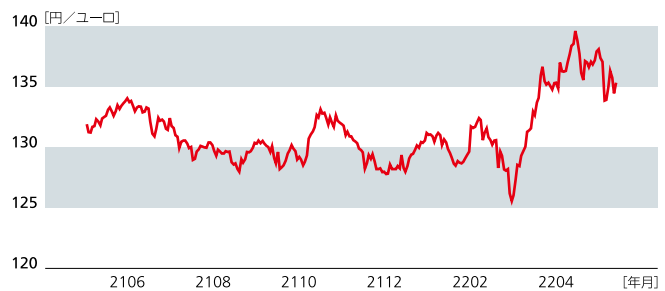


長期金利・3カ月後の見通し

ドル円為替レートの推移 [直近1年] 資料:日本銀行



ユーロ円為替レートの推移 [直近1年] 資料:ECB



長期金利(10年国債利回り)の推移 [直近1年] 資料:日本証券業協会

